さがみはら産業振興ビジョン2025

＜概要版＞

世界に向けて、
新たな価値と魅力を創造・発信し、
未来を拓くさがみはら

相模原市

策定の目的等

我が国を取り巻く社会経済環境は、少子高齢化の進行や経済のグローバル化など大きく変化してきており、こうした変化がもたらす様々な課題への対応が急務となっています。

そうした中、本市は津久井地域との合併を経て、政令指定都市に移行し６年が経過しました。この間に、リニア中央新幹線の駅設置の決定や圏央道の市内２箇所のインターチェンジの開設、小田急多摩線の延伸計画など、広域的な交通ネットワークの整備が進められ、本市は首都圏南西部の広域交流拠点都市として、着実にそのポテンシャルを向上させつつあります。

こうした状況を踏まえ、主に工業、商業・サービス業を中心に、新しい時代を見据えた産業政策の方向性を中長期的な視点に立って戦略的かつ総合的に示すため、農業や観光等の他の分野との整合も図りながら「さがみはら産業振興ビジョン 2025」を策定しました。

なお、本ビジョンの計画期間は、2016 年度から 2025 年度までの 10 年間とし、中間年次（5 年目）に点検、見直しを行うものとします。

相模原市の産業の現状と課題

近年、本市を取り巻く社会経済環境も大きく変化してきており、地域経済の発展と本市産業の更なる振興を考える上で、環境の変化に的確に対応していくことが必要となります。また、本市産業の現状と課題を的確に把握し、本市が持つ強みを生かすとともに、課題を克服する取組が求められます。

機会や脅威となる要因など考慮すべき社会経済環境の変化と、こうした変化を踏まえた本市産業の現状（強み）、課題（弱み）については、次のものが挙げられます。

本市を取り巻く社会経済環境

<機会となるもの>

○グローバル化
　・アジア等の新興国における経済発展､需要拡大
○まち・ひと・しごと創生(地方創生)
○国の成長戦略等による成長分野の振興
　・振興ターゲット分野へのロボットの追加
　・さがみロボット産業特区
○東京オリンピック･パラリンピックの開催
○ＩＣＴの発展
○低炭素社会の実現
　・水素エネルギーの普及促進
○広域交通基盤の整備
　・リニア中央新幹線の整備　　・圏央道の開通
　・小田急多摩線の延伸計画

<脅威となるもの>

○グローバル化
　・国際的な競争の激化
　・海外事業活動拠点の増加
○我が国における少子高齢化、人口減少の進行
　・労働力不足
　・国内需要の縮小
○国内における都市間競争
　・産業振興、人口増加を目指した企業誘致
○Ｅコマース(電子商取引)による購買スタイルの変化
○エネルギー問題による事業活動への影響
　・電力価格の上昇
○国内における自然災害の頻発

本市産業の現状と課題

<本市産業の現状（強み）>

○周辺自治体とともに 230 万都市圏を形成
○広域交流拠点としてのポテンシャル
○ロボット等新たな成長分野との結びつきが強い機械系業種の集積
○高い技術力を持つ企業の集積
○医療、福祉、教育、生活関連サービス等の個人向けサービスの集積度の高さ
○良好な住環境と豊かな自然（多様な地域性）
○広域交通基盤の整備
　・リニア中央新幹線の整備　　・圏央道の開通
　・小田急多摩線の延伸計画

<本市産業の課題（弱み）>

○昼夜間人口比率の低さ（昼間人口の流出）
○将来的な労働力不足
○業務機能の集積度の低さ
○通勤・通学や購買力の市外流出と受け皿不足
○商店街のにぎわいの低下と買い物弱者の将来的な増加
○情報通信業等の事業所向けサービスの集積度の低さ
○豊かな自然等の地域資源の活用が不十分

相模原市が目指す産業像

内陸工業都市として発展してきた本市には、高度な技術力を有する産業集積基盤があります。また、今後は、広域交通ネットワークの充実や安定した地盤等により、そのポテンシャルを生かした成長産業の集積が期待されており、工業を中心としたこれらの産業の活性化により、高生産性や高付加価値等の新たな価値を創造します。

一方、津久井地域との合併により、良好な住環境、豊かな自然といった多様な地域性や地域資源を有したことは、本市産業の活性化に大きな可能性をもたらすものです。こうした地域資源を活用した商業・サービス業の革新や広域交流拠点都市としてのポテンシャルを生かした業務機能の集積促進により、新たな魅力を創出します。

さらに、急激に変化する社会経済環境下において、競争力を強化し、市内経済の更なる発展につなげるためには、業種の垣根を超えた新ビジネスや新産業の創出が求められます。様々な産業の連携・交流を通して価値や魅力をより高め、効果的に発信することにより、海外市場の獲得や国内外からの産業集積を促すとともに、ビジネスや観光等を目的とした国内外からの訪問客の増加を目指します。

こうした考え方を基に、本ビジョンでは目指すべき産業像を

世界に向けて、新たな価値と魅力を創造・発信し、未来を拓くさがみはら

と定めました。

【目指す産業像のイメージ図】

(※)本ビジョンの目標年度である 2025 年度における相模原市、座間市、大和市、厚木市、愛川町、八王子市、町田市の推計人口の合計値(出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 25(2013)年 3 月推計」)

施策体系

本ビジョンでは、本市が目指す産業像の実現化に向け、本市の強みを生かし、様々な産業の連携・交流を図りながら、本市産業を持続的に発展させるための４つの「戦略」を掲げました。また、各戦略に基づく行動指針として、８つの「施策の方向性」を定め、さらに、施策の方向性を踏まえ、かつ実施事業に照らし 30 項目の「基本施策」を掲げて、実現化のための施策体系としています。

目指す産業像	戦略	施策の方向性	基本施策
世界に向けて、新たな価値と魅力を創造・発信し、未来を拓くさがみはら	【戦略１】業種を超えた仕組みの構築による新産業の創出	1.1 様々な産業の連携・交流を促し、製品やサービス等が一体となった新産業を創出する	1.1.1 広域交流拠点機能の活用等による産学官金の連携の推進
			1.1.2 高付加価値な製品とその製品を活用した高付加価値サービス等の創出促進
			1.1.3 国際交流が促進される環境の整備とビジネス機会の拡大
			1.1.4 農商工が一体となった地産地消の促進
			1.1.5 多様な産業との連携による観光施策の推進
	【戦略２】成長産業の集積とイノベーションによる価値の創造	2.1 新しい成長分野を開拓し市場の獲得を促す	2.1.1 成長産業の集積促進
			2.1.2 既存企業の成長産業への参入促進
			2.1.3 海外及び成長市場の獲得のための販路開拓支援
		2.2 イノベーションにより新たな価値を創造する	2.2.1 産学連携等による研究開発の促進によるものづくり技術の高度化
			2.2.2 情報技術の活用による生産プロセスの高度化とさがみはら発の次世代ものづくりの形の創出
		2.3 ものづくりの力によりソリューションを創出し市民生活を支える	2.3.1 市民の生活を守り、健康の維持増進に資する製品を活用したソリューションの創出
			2.3.2 新エネルギー関連製品を活用したソリューションの創出
			2.3.3 ものづくりの力による災害対応能力向上の推進
	【戦略３】地域資源の活用による魅力の創出とブランドの確立	3.1 まちの魅力の磨き上げと積極的な発信により交流を促進する	3.1.1 地域資源と商業・サービス業の結合・融合による魅力の向上と新たな魅力の創出
			3.1.2 広域交通基盤の強化を機会とした、業務、商業、サービス機能の集積促進
			3.1.3 産業を広くサポートする事業所向けサービス業の創出
			3.1.4 既存商業機能のリノベーションによる街のにぎわいの創出
			3.1.5 街の中核と周辺のネットワーク形成による、街の厚みの創出
		3.2 生活の質を維持・向上し、活力ある未来を実現する	3.2.1 地域の暮らしやにぎわいを支える商店街の振興
			3.2.2 高齢化社会の進行に伴う買い物弱者対策の推進
			3.2.3 高齢化等により生じる地域課題を解決するコミュニティビジネスの創出支援
			3.2.4 外商やＥコマースを活用した新たな商業ビジネスモデルの促進
	【戦略４】産業を支える基盤づくりの推進	4.1 市内産業の持続可能な成長と発展に資する基盤づくりを推進する	4.1.1 産業人材の確保、育成、定着の支援
			4.1.2 多様な働き方による女性の活躍推進
			4.1.3 人的交流や産業集積を支える都市基盤整備の推進
			4.1.4 市の魅力及び市内産製品・サービスの魅力を伝える強力な情報発信手段の構築
			4.1.5 新規事業の発生・成長を促すためのインキュベーション機能の強化、他機能との相乗効果の醸成
		4.2 技術継承や生産工程の高度化により、ものづくりの基盤を支え続ける	4.2.1 安心してものづくりができる産業用地の保全
			4.2.2 技術者育成によるものづくり技術の継承・高度化
			4.2.3 ロボット技術を活用した生産工程の高度化による競争力の強化

重点プロジェクト

本市の将来にわたる持続的発展に向けて、少子高齢化とグローバル化という２つの喫緊の課題に対応するため、重点的に実施すべき取組を、７つの重点プロジェクトとして位置付けました。

【Ⅰ】ひとづくり・まちの新たな魅力づくりによる商業振興

◆ひとづくりイノベーション・まちリノベーションによる
　商店街の再生
◆買い物弱者対策の推進

【Ⅱ】ロボット技術を活用した生産・サービス・ライフスタイルの革新

◆ロボット産業の活性化
◆産業用ロボットの導入支援

【Ⅲ】産学連携等による新産業の創出と中小企業の育成・支援

◆中小企業の研究開発支援
◆コンソーシアムによる新技術の実用化支援
◆広域連携と女性の活躍による新事業の創出
◆ものづくり企業のワンストップ支援体制の構築

【Ⅳ】戦略的な企業誘致の推進

◆企業立地の促進
◆工業用地の保全・活用
◆産業を中心とする新たな都市づくりの拠点の形成

【Ⅴ】多様な地域資源を活用した経済の活性化

◆宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）と連携した
　宇宙関連産業の成長支援と宇宙の魅力を生かした商業振興
◆歴史や文化、街並みを生かしたイベントの支援
◆さがみはらブランドの確立につながる事業に対する支援
◆インバウンド事業の推進
◆都市型観光の推進
◆産業観光の推進
◆農商工連携の促進（農業の６次産業化の促進）

【Ⅵ】交流人口の拡大に向けたグローバルなまちづくりの推進

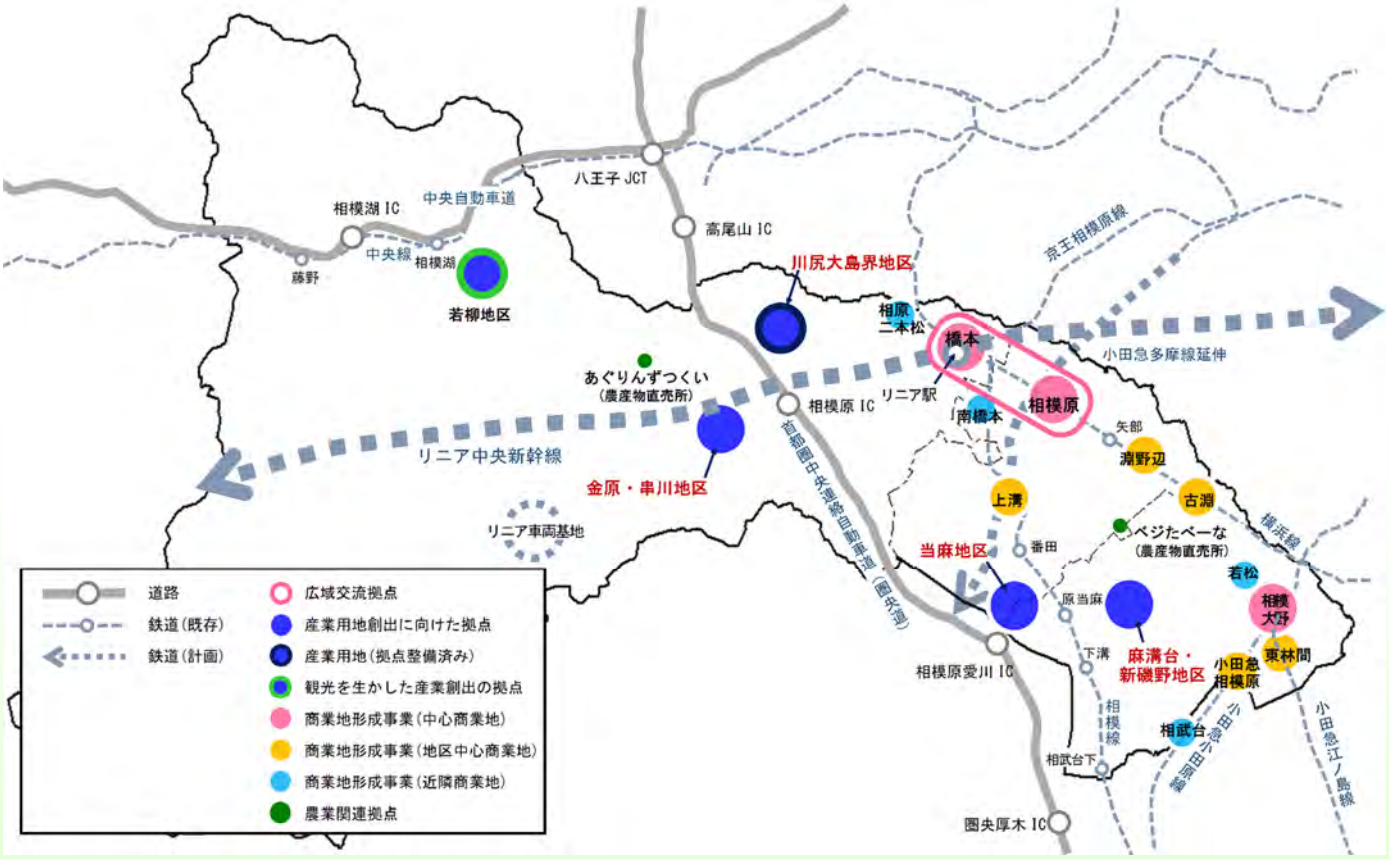
◆業務系企業の誘致推進
◆中心市街地の魅力向上
◆商業地の形成
◆コンベンション機能の整備推進
◆宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）と連携した
　宇宙関連産業の成長支援と宇宙の魅力を生かした商業振興<再掲>

【Ⅶ】世界に向けた販路開拓支援

◆海外成長市場の獲得支援
◆販路開拓支援
◆ＭＩＣＥの誘致
◆さがみはらブランドの確立につながる事業に対する支援<再掲>

都市基盤整備

広域交流拠点や産業用地創出に向けた拠点の整備、商業地の形成など複合的な都市機能を備えたまちづくりを進めるため、産業集積を支える都市基盤整備を推進します。



ビジョンの推進体制

本ビジョンは、2025 年度に向け、産業政策の方向性を定めたものです。今後、本市を取り巻く社会経済環境の大きな変化が予想される中で、ビジョンに掲げる施策を着実に推進するためには、様々な主体の連携が必要不可欠です。

本ビジョンの推進に当たっては、新・相模原市総合計画における施策を推進するための基本的な方針に沿って、国、県や産業支援機関、民間事業者、金融機関、大学など市内産業に関わる様々な主体との現行の連携体制を活用しつつ、適宜新たな連携を取りながら、事業推進の体制を整備していきます。

また、本ビジョンに基づき実施される各事業については、新・相模原市総合計画の進行管理と併せ、「PDCA サイクル」の考え方を活用し、推進していきます。

さがみはら産業振興ビジョン 2025（概要版）

2016 年 3 月発行

発行者：相模原市

相模原市中央区中央 2 丁目 11 番 15 号

TEL042-754-1111（代表）

編集者：相模原市環境経済局経済部産業政策課・商業観光課